

## 南アフリカ リンゴとナシの輸出は2024年に回復の見込み

FreshPlaza 2024年1月17日

南アフリカの仁果類(リンゴ、ナシ等)の生産者らは、輸出の回復を期待している。これには、2023年に主要果樹産地の一部で降雹の被害を受け、輸出できる仁果類が減少したことが背景にある。

業界団体のホートグロ(Hortgro)は声明で、「2024年の収穫シーズンはすでに本格化しており、昨シーズンよりも1週間から10日早くなっている。リンゴの輸出量は有望で、ナシの輸出量は平均をわずかに下回る見込みである。これは、寒く、雨の多い、好ましい気象条件が果実生産にプラスの影響を与えたことに大きく影響された」としている。

リンゴの輸出量は、主に若い果樹園の成園化と良好な天候により、7%増加すると予想されている。ガラ(+5%)、クリップスレッド(+11%)、ビッグボックス(+33%)などのバイレッドの(赤と黄など2色の)リンゴが、増加した数量の大部分を占めると予想される。また、ピンクレディーの出荷量も、ここ数シーズンの傾向に従って8%増加すると予想される。

一方、ナシの輸出量については、昨シーズンから1%増のより緩やかな見通しを示されている。アバテフェテル品種の出荷量は、早めの収穫と霜害により、3%減少すると予想される。パッカムストライアンプ品種の出荷量は昨シーズンと同じと予想される一方、チーキー、セリーナ、ローズマリーなどの夏の赤ナシはわずかに増加すると予想される。

物流の観点から見ると、生産者にとっては依然として港湾が最も直接的な課題である。業界は、農産物の味を保つ信頼できる時間厳守の供給を確保するため、関係する国有企業と常に連絡を取り合っている。

## インド リンゴの供給が不足、紅海の状況で輸入がより困難に

FreshPlaza 2024年1月18日

インドの果実貿易業者フレッシュフルーツアライアンス社のプラシャント・ギドワニ氏は、紅海の情勢のためにインドのリンゴ輸入が大きく減速しているとして、「最近の紅海の問題は、世界で最も重要な航路の1つで貿易を混乱させた。ヨーロッパからインドに来る船舶の所要時間は、船がアフリカの南に迂回するため、15日～20日長くなっている。これにより、海上貨物運賃が急騰し、サプライチェーンに大きな影響を与えた。市場は供給不足が続き、価格水準が高騰した」と指摘する。(以下「」は同氏の発言)

供給は逼迫しているかもしれないが、ギドワニ氏は、CA貯蔵庫に入っているリンゴが旺盛な需要への対応を助けるだろうと考えている。「昨シーズンの国内の収穫量が少なかったことを承知しているからだ。この国内のリンゴ供給の不足と紅海の状況が相まって、リンゴの供給が非常に限られている。一方、ヒマチャル地方のCA貯蔵庫の果実は、高い需要を予想している。カシミール地方のCA貯蔵庫にはたくさんの果実があるが、まだインド市場には出回っていない。市場がこの供給の状況に適応して好調を維持し続けるのか、それとも下落するのかを見極めるのは興味深いことである。」

インドは価格主導の市場であるため、ヨーロッパのより高価な果実の生産者の一部は市場シェアを失った。「リンゴの輸入が多すぎた時期があったが、その後需要が通常のレベルに戻った。しかし、現在、紅海での混乱により、供給が影響を受けている。インドは価格主導の市場であり、過去数年間でトルコ、イラン、ポーランドなどの国々はインドの市場ダイナミクスを理解し、それを尊重しているため、引き続きインド市場の主要なサプライヤーとなっている。一方、イタリア、スペイン、フランスなどの高級品の生産国は、価格が高いため市場シェアを失った。

今後については、旺盛な需要はすぐには終わらないと予想される。「北半球の産地からの供給不足と消費者側の需要の継続により、市況は堅調に推移すると予想している。」

執筆者: ニック・ピーターズ